

まず、2学期のピックから確認しておきましょう。それは、創立120周年の行事です。二つあります。

一つ目は、伝統の提灯行列です。5月は、残念ながら大雨でできませんでした。本来は雨天中止だったのですが、同窓会の皆さんからのたつての希望で、10月12日土曜日に行うこととなりました。従って今回は、希望者のみの参加となります。本校グラウンドを出発し、大瀬橋から堤防を通過して学校に戻ってくるルートを歩きます。10年に1回の行事です。参加したい人は、是非希望してください。

もう一つは、記念式典です。これは学校行事として開催します。10月18日金曜日、延岡総合文化センターで行います。多くの来賓の皆さん、同窓会の皆さんがいらっしゃいます。120年の歴史を皆で振り返り、次の130周年に向けての決意の日にしたいと思います。多くの皆さんに運営に携わってほしいと思います。そして、学校の歴史とともに自分自身の有り様についても考える機会にしてください。

さて、この夏蓄えてきた努力を開花させるのが、この2学期の意義となります。

そのためには、点と点を結んで線にする作業をする必要があります。基礎を一つ一つ確認し自分のものにしていくことが、点を打つ作業です。しかし、点を打っただけでは本物の実力にはなりません。その一つ一つの点を繋げて、一本の線にする必要があります。それが基礎が応用力になる、ということです。

英語を例に取りましょう。英語には多くの文法事項がありますが、実際の問題ではそれが個別に出題されるわけではなく、一つの長文に全ての文法事項が含まれています。従って、点として覚えた文法事項を線として応用しながら英語の文を読んでいくことが必要です。それが、英文を読んで理解するということです。この2学期、夏に蓄えた基礎を、応用力に変える作業にしっかりと取り組んでください。

その際、気をつけておいてほしいことがあります。それは、「効率のよい学びが優れたパフォーマンスに繋がるわけではない」というものです。

基礎から応用に繋げる作業もまた、地味な努力の積み重ねであることに変わりありません。つまり、インプットしたことをアウトプットしながら、自分のものにしていく必要がある、ということです。簡単に言えば、指にペンだこのできる努力を、日々繰り返す、ということになります。

その時、皆さんは、集団の中の孤独に耐える必要があります。なぜなら、人は、つい周

困の人が自分より先を歩いているように見えてしまうからです。そして、自分だけが伸びていないと思って、不安にかられ、集中できなくなります。

そんなときにとってもいい合い言葉があります。それは、「今日も自己ベストを出そう」というものです。誰かと比べるのではなく、昨日の自分と比べて今日の方が少しでも上であればいい、と考えてください。それを自己ベストと言うのです。そして、毎日自己ベストを出し続けようとすること、それが不安を抑えて、集中できるコツだと思います。

この2学期、第一志望を貫き通してください。一番やりたいこと、一番行きたい進学先を貫いてほしいと思います。そのために必要な努力を実践する2学期にしてください。

成長は指数関数曲線のように表れます。決して右肩上がりの比例直線ではありません。伸びは、地味で単調な努力が蓄積し、点が線になって繋がった時初めて表れるのです。

2学期が、蓄えた努力が実っていく期間となることを期待します。